

矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol. 4



発行日：平成 30年12月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第49回山部会WGを開催しました！

11月16日(金)に第49回山部会WGが岡崎市額田センターにて開催されました。今回も流域担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに対する継続的な議論とともに、次回以降議論する9年間の成果について情報共有を行いました。

日程：平成 30年11月16日(金)～17日(土)

場所：岡崎市額田センター こもればかん 集会室 ・岡崎市千万町町 宮崎町

参加者：16名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

平成 27 年度までの 3 ヶ年、山村再生担い手づくり事例集として、山村漁村の振興に貢献する 64 団体への取材を行い、3 冊を発行しました。昨年度からは、より広い範囲の団体に焦点をあてた流域圏担い手づくりに名前を変えました。今年はその 2 年目として活動を行っています。現在、取材者の募集を行っていますが、新たな取材者を募集するために、改めて、ML をつかって呼びかけたいと考えています。

今後の予定は以下のとおりです。

①事前検討会・取材・読み合わせ会(11～1月) ②レポート提出(2月) ③完成(3月)

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、以下の 2 項目について情報共有と意見交換を行いました。

(1) 平成 30 年岡崎森林組合員の山林管理に関するアンケート

トヨタ財団の補助金を利用して、木の駅会議の額田優良材プロジェクトの一環として、岐阜県森林文化アカデミーの学生有志 5 人がアンケート結果の解析を行っています。11月20日に森林アカデミー内で中間発表会を行い、12月8日のおかざき森の健康診断報告会で中間報告を行います。

(2) 「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域林業担い手 100 人ヒアリング～

国土緑化推進機構の補助金を使用して、矢作川森の健康診断実行委員会と矢作川流域圏懇談会で共同実施しています。年内に調査を完結して、最終報告書の作成に入ります。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

岡崎市環境政策課の斎藤様より、以下の 2 題をご提供いただき、意見交換を行いました。

(1) おかざき森の健康診断

平成 30 年 6 月に森の健康診断を実施し、12 月 8 日に報告会を行います。これまで岡崎市では 2008 年に第 1 回、2013 年に第 2 回を実施しました。この 2 回は、あまり変化がありませんでしたが、今回は良いデータが出ています。是非、ご参加ください。

(2) 森林環境譲与税

岡崎市では、森林環境譲与税として約 3000 万円が見込まれています。しかし、全ての岡崎市民の納得のいく使い途の検討は非常に難しいものとなっています。林業に充てる前に、街の人々に賛同を得るための環境教育、普及啓発にも使用しなければなりません。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の 2 項目について情報共有・意見交換を行いました。

(1) 木づかいライブ・スギダラキャラバンの展開

現在、森林認証を取得した長野県の 4 つの団体の窓口として、木づかいの推進を行っています。年末年始は東京スカイツリーで活動を行う予定です。

(2) 木づかいガイドライン 「さあ～しよう」の作成

これまで行動に移れていませんが、まずは年内をめどに、アンケート用紙を矢作川流域市町村あるいは愛知県、岐阜県、長野県へ配信して、集めてみたいと考えています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・最近では取材先と取材者の関係が希薄になっているため、もう少し丁寧に事例集を作成したいと考えている。(洲崎)
- ・安城市で30社程度の企業が支援するいかだ下りを行う団体がある。余裕があれば候補にしてもらいたい。(太田)
 - ▶取材者が集まれば、取材先として取り扱いたい。(洲崎)
- ・以前、この懇談会でも活動報告があった「つくラッセル」は、シェアハウスやカフェなどが並び、廃校のイメージを感じさせない場所となっている。メンマづくりプロジェクトもここで進められている。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・特に岡崎森林組合のトップは、組合員の不平・不満に対して正面から向かい合う姿勢であり、敬服に値する。(丹羽)
 - ▶流域の各森林組合員が意見交換と交流の場を持てることが望ましい。おそらく、考えは皆同じだと思う。(今村)
- ・都市と山村の収入格差は非常に大きい。山村の人たちの収入が増える仕組みが何かないかと考えている。(浅田)
 - ▶その収入格差は、我が国の大きな課題の一つだ。ところが、今でも東京一極集中に歯止めがかかっていない。そこで、私は木材利用を促進するためのソーシャルビジネスを提案している。(筒井)
- ・林業の担い手たちが発するさまざまな「ツイト」をとりまとめて、一つの成果にしたい。(丹羽)
- ・フランスでは国土の環境を守るために、農林業に対して莫大な補助金を支払っている。(太田)
 - ▶西欧諸国の多くは、田舎に住むこと自体が公共的な役割とされ、国が収入を補填する仕組みとなっている。(蔵治)
- ・オリジナルの技術・技能を持っているがゆえに山村で輝ける人生だと言える社会を根羽村で証明したい。(今村)
- ・四国・九州では更新伐といって更新するために皆伐をする補助制度がある。四国や九州ではそのようなニーズがあり、この地域とはまったく違う世界になっている。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《おかざき森の健康診断について》

- ・参加者数は年齢に比例していたが、地域の中学生・高校生・大学生に東大の学生も加わり、活気があった。(齋藤)
 - ▶40代までの人がこれだけ参加するのは珍しい。(近藤)

《国の森林環境譲与税について》

- ・岡崎市の用途について、どのような人々が検討に関わっているのか。(今村)
 - ▶市役所内部が圧倒的だが、森林組合、林業クラブ、木の駅の関係者、山主などにも意見をうかがっている。(齋藤)
 - ▶豊田市は森づくり委員会という基盤を整備している面で先進的だが、それが機能するかが重要である。(丹羽)
- ・豊川流域ではこの税金を流域市町村が話し合って使用すると聞いた。矢作川流域と比べて進んでいるのか。(齋藤)
 - ▶矢作川流域よりずっと進んでいる。1t1円の水道料金上乗せ制度は、豊根村から田原市のすべての市町村が導入しており、議論しやすい環境となっている。一方で、矢作川は豊田市のみで行われ、今後も続ける方針だ。また、豊田市は森林環境譲与税の使い途を、現在の施策に組み込む方針を4月時点で提示している。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・森林認証とは村の森林のどの範囲になるのか。(蔵治)
 - ▶約7000ha、グループ認証といって、森林組合・安城市・明治用水・長野県・林業公社が取得している。(今村)
- ・現在、豊田森林組合と連携しているが、森林環境譲与税を使って流域の全組合と連携できたらと考えている。(今村)

●山部会の9年間のまとめについて

- ・事例集活動拠点位置図、フィールドワーク位置図などの流域マップも9年間の成果にしたい。(事務局)
- ・木づかいについては、この懇談会がなければ、これほどの成果は出なかったと思う。木づかいライブ・スギダラキャラバンは、非常に力を入れてきたことであり、これだけで一つの成果になると考えている。(今村)
- ・目に見える成果はもちろん大事だが、成果にできない部分の検討についても記録に残すべきだ。(浅田)
- ・この懇談会は、いろいろな役割を果たしてきたと思う。異なる業種の人々が話し合う「場」の役割は大きい。(丹羽)

◆岡崎市におけるフィールドワーク(案内人:一般社団法人 奏林舎 唐澤晋平代表理事)

《みかわエコ薪》千万町の鶏舎跡地では、この地域で搬出された間伐材を活用した薪づくりが行われていました。1パレット1万円で、薪ストーブを展開する事業所や家庭に配達しています。薪割り体験などを行いながら、薪の生産や販売ルートについて学びました。

《貯木場》宮崎の貯木場には、生産者が示された原木が保管されており、その目的・流通の現状と課題を学びました。



今後のスケジュール(予定)

山部会のまとめの会は、1月29日(火)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

